

あなたと共に創り出す
「共生のまち」

西宮市社協 第9次地域福祉推進計画 ダイジェスト版



“つながる” “認め合う” “話し合う”

あなたと共に創り出す「共生のまち」

～ 共創による 共生社会の実現へ～

人と人とお互いの存在を尊重し合い、対等な関係を築きながら、自分の役割と居場所をもって、共に生きていく『共生のまち』

西宮市社会福祉協議会では、これまで活動を共にしてきた地域住民・団体等とのつながりを大切にし、更に多様な主体による活動や団体と“つながり”“認め合い”“話し合う”『共創』のプロセスを育みます。そして、地域で暮らす誰もが生きがいをもって活躍できる地域づくりをすすめます。

推進目標Ⅰ

みんなでつくる みんなの地域

さまざまな個人・団体等とすすめる 地域福祉活動の推進

- 身近な地域で集える場づくりをすすめ、住民同士が気にかける関係性を育みながら、日常生活での見守り・支え合いが生まれる地域をめざします。
- 誰もが地域の中で役割があり、さまざまな経験ができる機会を広げます。
- 地域づくりに関心のある多様な個人や団体が主体的に参加できる場づくりをすすめます。



推進目標Ⅱ

地域で自分らしく 暮らしつづけるために

権利擁護・総合相談支援体制の推進

- 住民と専門職がつながり、生きづらさを抱えている人のSOSを受けとめ、本人が希望する暮らしを実現するために「断らない、受けとめる」相談支援をすすめます。
- 本人が地域社会とつながり、その人らしい役割をもって生きていくため、住民と共に「本人の声を大切に活動」を生み出していきます。
- 誰もが一人ひとりの価値感を認め合える地域づくりへとつなげます。
- 住民や地域の活動団体、各専門機関や事業所、そして学校や保育所等の機関ともつながり、さまざまな地域課題を解決していくしくみづくりをすすめます。

先導的取り組み

地域のあったかい拠点づくり ～共生のまちづくりの実現に向けて～

- さまざまな人が出会い、つながり、認め合いながら新たな価値を生み出す（創造する）拠点づくりを多様な団体とすすめます。



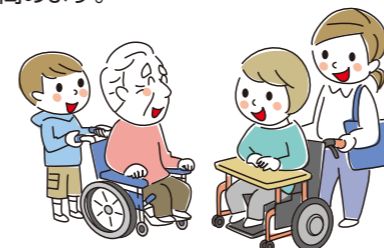
推進目標Ⅲ

一人ひとりの 思いがあふれる地域へ

地域や人への思いを育む土壌を広げる

- 子ども・若者・障害のある人・高齢者などさまざまな人が出会い、互いの価値観を共有し、認め合える場を広げます。

- 自分のまちに関心もてる、地域課題について学び合える機会を広げます。
- 地域活動の多様性を理解し合える機会をつくり、活動や参加できる人の広がりをめざします。
- 世代や対象に合わせた情報発信・受け取る力を高めます。



重点取り組み

子どもたちと共につくる わたしたちの地域

- “地域を共に創るパートナー”として子どもたちの声が反映された地域づくりをめざします。
- 子どもたちが安心してSOSを出すことができるために、日常的なつながりづくりや同じ課題を抱えた子どもたちの集まれる場づくりをすすめます。

推進目標Ⅰ

さまざまな個人・団体等とすすめる地域福祉活動の推進

みんなで作る みんなの地域

地域での人と人とのつながりが薄れ、課題も複雑化・多様化しています。そのため住民活動だけではさまざまな課題の解決が難しくなっています。地域の住民や団体がつながり、それぞれの力を発揮しながら、身近な地域に参加・参画し、支え合える地域づくりをすすめます。

キーワード

- ☑ さまざまな人が出会い、集える場の充実
- ☑ 気づきからのつながり、支え合い
- ☑ さまざまな人や団体・企業等のつながりづくり
- ☑ それぞれの地域の特徴に合わせた活動をすすめる

まちのエピソード

地域団体のつながりから 地域課題の解決へ

～浜甲トライあんぐる～

キーワード

- ☑ 気づきからのつながり、支え合い
- ☑ さまざまな人や団体・企業等のつながりづくり

内容

「浜甲トライあんぐる（3つの社会福祉法人の法人連絡会）」は、法人の所有する車に、見守り活動を展開していることを示すステッカーを貼り、送迎等の通常業務の中で、不審者発生や緊急事態発生時に迅速に対応できる見守り活動をスタートさせました。今後も施設と地域の協働をすすめながら、地域課題の解決につながる取り組みを展開します。



地域と当事者が つながる活動展開

～わかみや会の活動～

キーワード

- ☑ さまざまな人が出会い、集える場の充実
- ☑ さまざまな人や団体・企業等のつながりづくり

内容

若年性認知症の本人・家族の交流会「わかみや会」は、本人の役割や地域とのつながりづくりの機会として、高齢者福祉施設で利用する使い捨てふきとり布づくりを行っています。また、夏休みには小学生を対象にしたイベントを開催し、カフェコーナーでの接客や子どもたちがブースと一緒に工作をするなど社会参加の幅を広げています。



推進目標Ⅲ

地域や人への思いを育む土壌を広げる

一人ひとりの 思いがあふれる地域へ

「ご近所の関わりは、ちょっとわずらわしい」「なるべく人に迷惑をかけたくない」「コロナ禍で人との交流ができない」など、これまで以上に地域は、人と人がつながることが難しい状況にあります。西宮市社協では、「誰もがこの地域に暮らしていて良かった」と感じられるよう、あらためて一人ひとりが自然につながることができる地域づくりをすすめます。

キーワード

- ☑ “生きがいと役割”がある地域へ
- ☑ ライフステージに合わせた“学びの機会”
- ☑ 気軽に参加できる地域活動
- ☑ 一人ひとりに情報を伝える

まちのエピソード

大学生が活躍する地域へ ～学生応援プロジェクト繋がり隊～

キーワード

- ☑ 生きがいと役割がある地域へ
- ☑ 気軽に参加できる地域活動

内容

「入学式が開けない」「授業はオンラインで友達に会えない」など、コロナ禍で大学生の状況は大きく変化しました。学生たちは「このまま学生生活を終えたくない」と、一緒に学ぶ大学生や地域の活動を応援するプロジェクトを立ち上げました。これまで地域との関わりが少なかったメンバーは、活動での出会いを通して「私たちにも力になれることがあるんだ」「西宮が第2のふるさとと感じた」とコロナ禍で新たな発見をしました。大学のまち西宮だからこそ、大学生が地域で活躍する地域づくりをめざします。



気軽に楽しい「まなびの場」 ～みやっこまなびラボ～

キーワード

- ☑ ライフステージに合わせた“学びの機会”
- ☑ 一人ひとりに情報を伝える

内容

「子ども食堂ってよく聞くけど、どんなところ?」「西宮にも学校に行きづらい子が安心して行ける場所はあるの?」、西宮市社協には地域の方からさまざまな疑問が寄せられます。コロナ禍で集まった講座を実施しつらい中、オンラインを活用した取り組みがスタートしました。地域の方の関心に合わせて、「子ども食堂」「本を通したつどい場」「不登校・引きこもりの方の居場所」と毎回テーマを変え、実施しました。地域のお店やPTAなどあまり情報が伝えられていなかった方にもお知らせすると、これまでつながっていなかった方がたくさん集まりました。これからも気軽に参加してもらえよう、楽しい学びの取り組みを企画します。



先導的取り組み

地域のあったかい拠点づくり ～共生のまちづくりの実現に向けて～

ご近所のつながりが薄れ、孤立する人が増える地域の中で、「そこに行けば誰かいる。そこにいれば何かある」場所が必要とされています。新しくついたり、すでにある場所を活用しながら、西宮市全体で誰もが集まりやすい拠点づくりをすすめます。

キーワード

- ☑ 出会い・つながり、共に活動できる場
- ☑ 社会とつながり、参加できる場
- ☑ 共に認めあう場

まちのエピソード

まちの活気を取り戻したい！

～住民みんなの思いで地域に交流拠点を～

キーワード

- ☑ 出会い・つながり、共に活動できる場
- ☑ 社会とつながり、参加できる場
- ☑ 共に認め合う場

内容

西宮市では、さまざまな世代が交流し、お互いに認め合う“共生型地域交流拠点”が開かれています。西宮浜地区はまちびらきから20年が経過し、急速な少子化の進行や飲食店の閉店が目立っています。そうした中「まちで暮らすみんなが、いくつになってもいきいきと笑って過ごせるように」と、地域住民が交流拠点を立ち上げました。来られる方は「みんなと気軽に話せるこんな場が欲しかった」と話され、拠点を通して人と人の新たなつながりが生まれています。



重点取り組み

子どもたちと共につくる わたしたちの地域

近年、家庭や学校、地域の中でさまざまな問題により、生きづらさを抱えたり、孤立した子どもたちが増えています。子どもたちは、次の地域社会をつくる大きな宝です。子どもが地域で多くの人と関わり、多様な経験を積み重ねる地域づくりをめざします。

キーワード

- ☑ 子どもたちの声を地域へ、子どもたちが地域づくりを
- ☑ 子どもたちのSOSを見逃さない地域へ、子どもたちがSOSを出せる地域へ

まちのエピソード

学校でも家でもない 地域の居場所

キーワード

- ☑ 子どもたちの声を地域へ、子どもたちと共に地域づくりを

内容

西宮市社協が運営する地域の拠点「地域共生館ふれぼ」には、学校帰りの小学生が毎日のように立ち寄ります。スタッフやボランティアが「おかえり」と声をかけ、すっかり顔なじみです。「トイレ貸して」「暑い、氷ほしい」「給食おいしかったよ」…子どもたちにとって学校でも家でもなく安心できる地域の居場所になっています。そうした地域の中での自然なつながりを広げていきます。



権利擁護・総合相談支援体制の推進 ～住民として暮らし続けるためのしくみづくり～

推進目標Ⅱ

地域で自分らしく 暮らしつづけるために

社会的問題となっている「8050問題」「ひきこもり」「ごみ屋敷」「ヤングケアラー」などの相談の背景を紐解くと、困窮、障害、家族力の低下などの要因が複雑に絡み合っています。また地域社会からも孤立しやすく、そして制度の狭間で支援が届かないことから、より問題が深刻化しています。

そのような課題に対し、住民と専門職がつながり小さなSOSの発信に気づき、受けとめ、一人ひとりがその人らしく役割をもって生きていくための地域生活支援をすすめていきます。

キーワード

- ☑ 住民と一緒に考える本人中心の相談支援
- ☑ 一人ひとりの声を大切にされた地域活動づくり
- ☑ 多様な人がつながり、地域課題を共に考えるしくみづくり

まちのエピソード

子どもの不登校から、 家族支援へ

キーワード

- ☑ 住民と一緒に考える本人中心の相談支援
- ☑ 一人ひとりの声を大切にされた地域活動づくり
- ☑ 多様な人がつながり、地域課題を共に考えるしくみづくり

内容

生きづらさを抱えた子どもとその母親、高齢である祖母の3人暮らしの生活を心配した学校から、障害の相談窓口につながりました。また関わりのあるご近所の方たちから心配する声もあり、医療機関や相談機関などの専門職が支援を行うこととなりました。あわせて子どもの成長を見守り、家族が地域で暮らし続けていけるよう、ご近所の見守りや居場所づくりなどの関わりを始めています。



その人らしく役割をもって 生きていく

キーワード

- ☑ 一人ひとりの声を大切にされた地域活動づくり
- ☑ 多様な人がつながり、地域課題を共に考えるしくみづくり

内容

パチンコが唯一の楽しみだった高齢者。生活に必要な支払いが滞り、自分ではどうすることもできずに困っていました。ご本人とこれからの生活について話し合い、専門職が関わることになりました。

当初は、ひとり暮らしで近所との付き合いもほとんどありませんでしたが、いろいろな人との出会いや関わりによって、今では一緒に将棋を楽しむ仲間もでき、通学路の見守り活動にも参加するなど、生活に張り合いができてきた様子を感じられます。



西宮市社協 第9次地域福祉推進計画の全体像

地域福祉推進計画は、地域福祉をすすめるための取り組みを示した計画です。

計画の期間	2021年(令和3年)10月～ 2028年(令和10年)3月
推進体制	地域住民、関係機関、行政などで構成した「すすめる会議」を設置し、計画全体をすすめるための協議を行います。

本編は
こちらから
ご覧ください



西宮市社協
第9次計画本編

第9次計画と 持続可能な開発目標 SDGs との関係

国連の持続可能な開発目標 SDGs の理念「誰一人取り残さない」と重なり合うことから、SDGs を地域福祉の側面から推進します。

